

潮田西部地区社会福祉協議会
発行責任者 細野一明
編集責任者 大塚重一

一人ひとりの困りごとを解決できる地域づくり

(1) 人々の「困りごと」とは？

地区社協が誕生した昭和 27 年は戦後復興期の只中でした。昭和 28 年に発行された「地区社協活動事例」では「蚊と蠅を無くす運動と優良ゴミ清掃夫の表彰」「母子家庭を幸せにする運動」等の具体的な取り組みを提案しています。

この時期の人々の困りごとは、不衛生や貧困、戦争によって働き手を失った世帯など。多くの人に共通するものや目に見えやすいものだったことが伺い知れません。また、家族や地域社会のつながりが強く、ある程度は互いのプライバシーに立ち入りつつ困っている人に気付き、支えあっていたと思われます。

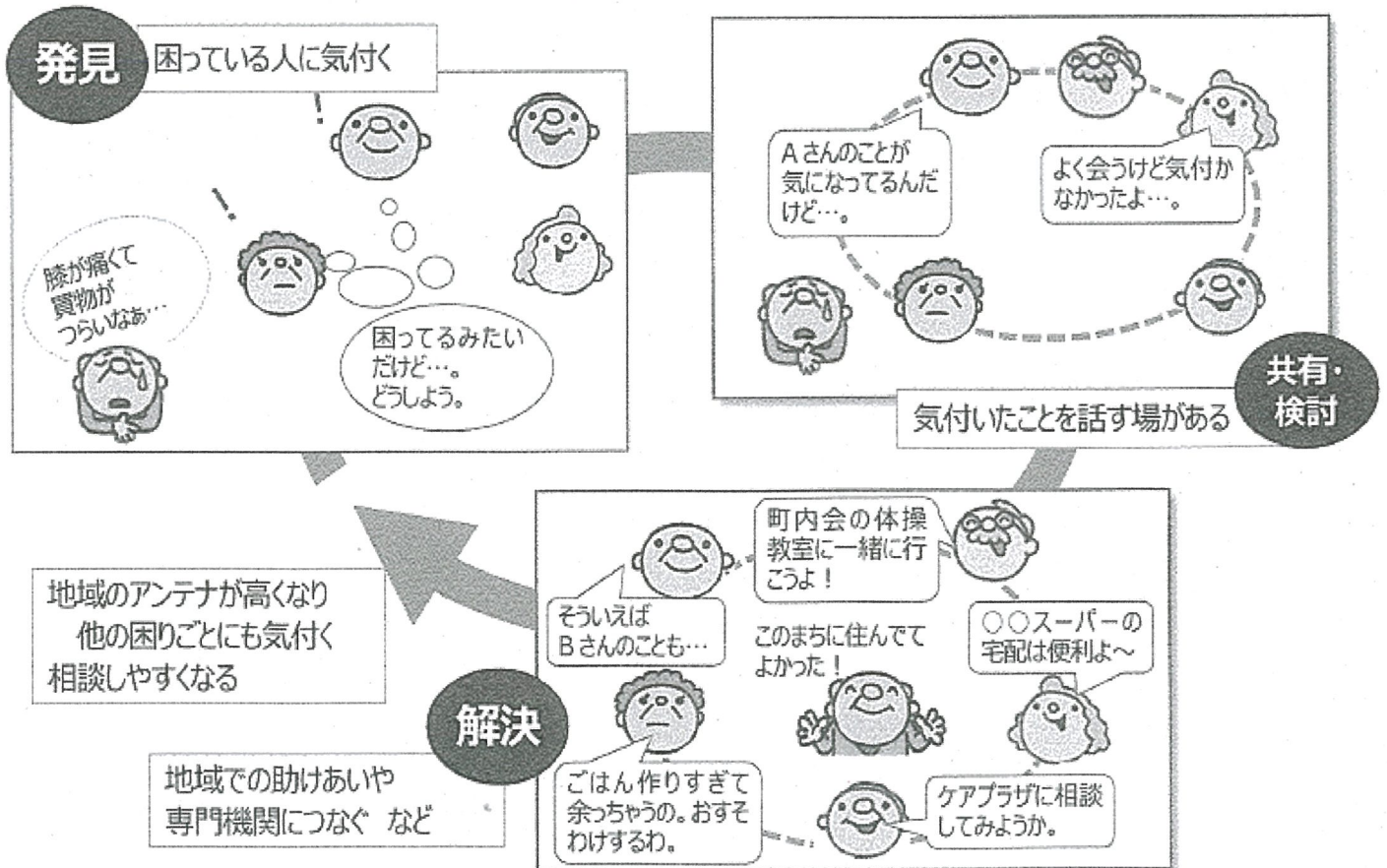
しかし、現在は少子高齢化が急激に進み、一人暮らしが増え、生活に便利な市場サービスが充実するなど、社会の様子は大きく変化してきました。そして、家族や地域社会、職場などのセーフティネットの機能が弱まった結果、引きこもり、孤立死、虐待、子供の貧困、いわゆるごみ屋敷などの新たな問題が増えています。

これらの多くは社会的に孤立し、困っている本人が誰にも SOS を発信できないもとも多く周りは気付にくい状況となっています。

(2) 「困りごと」をネットワークで解決する

このような時代の変化に向き合うためには、地域で困っている人を問題が深刻化する前に身近な地域で早いうちに発見し、制度や地域の助け合いにつなげていく必要となってきました。

困りごとの解決のためには、「発見」「共有・検討」「解決」につながるネットワークが必要です。





ウォーキングの講習会と実践

活動方針の中で健康作りを目標に昨年9月に潮田地域ケアプラザにおいて、体育専門のトレーナーから講習を受けました。

ウォーキングの実践を11月に入船公園で行いました。保健活動推進員の方々を中心とした活動に参加者も楽しいひと時を過ごし、美味しいお弁当をたべて散会しました。



高齢者と保育園児とのふれあい

去る一月、恒例の「みつる保育園」のご協力を頂き園児と高齢者のふれあいとお遊戯会を開催しました。今回も国際学生会館の参加され、楽しい時間過ごしました。

高齢者等の昼食会

一月に恒例の西部地区の昼食会を開催